



# 杉退教・さくら会 たより

杉並区退職教職員の会（さくら会）

杉並支部HP <http://tokyousosuginami.web.fc2.com>

〒167-0031 杉並区本天沼 1-2-19 都教組杉並支部内 Tel 3399-8719 Fax 3399-3855



## 青楓山人

久しぶりに久我山あたりを散歩してみました。上の写真のように素敵な庵の門を見つけました。屋根の下には「青楓山人」の文字が書かれています。折よく、紅梅白梅が満開でこの門に趣を添えていました。（久我山2-16・2月21日午後2時写す）

この書を見て思い出したのは、杉並にゆかりのあった画家、津田青楓（つだせいふう 1880-1978）です。津田は夏目漱石や河上肇とも親交があり、杉並の天沼にアトリエをもっていました。小林多喜二の虐殺を主題に「犠牲者」を描き、警察に留置されたことがあります。戦後は疎開から戻って高井戸に住み、98歳で大往生したと言われています。（山梨県笛吹市に「青楓美術館」がある）

近くに大蔵省グラウンドがあったので足をのばしてみました。野球場などはなくなり、広大な広域避難場所＝高井戸公園として生まれ変わるころでした。富士見ヶ丘に近い一面は公園として公開されており、大勢の家族連れの様子が見られました。（井の頭線 富士見ヶ丘駅から南西へ徒歩3分 高井戸公園入口がある）

## 杉退教も4月から新年度です

- \* この3月で退職されるみなさん、この3月で再任用・非常勤を終了されるみなさん、ぜひ「杉並退職教職員の会」杉退教のなかまになってください。
- \* お友達やかつて同僚だった方で、退教に加入していない方がいたら、ぜひ加入をすすめてください。
- \* 「近況報告・会費納入用紙」を同封しました。返信をお待ちしています。
- \* 5月は「さくらの便り」と「都退教45周年記念誌」をお送りします。

# コルドン作〈ベルリン三部作〉に思うこと

元大宮中学校 池田茂都枝

9月23日に『子どもの本棚』の新刊紹介の原稿依頼が届いた。紹介する本はクラウド・コルドン作・酒寄進一訳『ベルリン1945 はじめての春 上・下』（岩波少年文庫）である。コルドンファンの私にとっては願ってもない原稿依頼だった。

『ベルリン1933』を読んで以来コルドンファンになった私は、友人と二人だけのブックトークの会を「コルドン」と名付け、2014年のコルドン来日の際には講演を聴くために二人で大阪に飛んだ。翌日、会場の扉の前に一番で並んだ私たちは、最前列の特別席に案内されて、目の前でコルドンと訳者の酒寄進一氏の話に聞き入った。その時、コルドンがベルリン三部作を書いた動機を、歴史を知らないドイツの多くの若者に伝えたいと述べていたことが心に強く残ったが、『ベルリン1945』のあとがきにも書かれていることに気がついた。

「気がついた」と書いたが、実は2014年には、『1919』と『1945』はすでに理論社から出版されていて、未購入だった私は講演後のサイン会場で2冊を買い、『1919』にはコルドンと酒寄進一氏のサインもしていただいたのに、ずっと「積ん読」状態だったのである。

原稿依頼を機に、『1919』を読み、『1933』も読み直したが、重く、キツイこの三部作を読み終わらせるまで、

中断してはひと息入れ、また机に向かうという繰り返しであった。かつて、30代半ばに、通勤電車の中でフランクルの『夜と霧』を読みながら、

本を閉じてはまた開いて読むを繰り返したことを何度も思い出した。読書が楽しいものだけではないことはわかっていたが、自分の読書へと移行中の私は、半ば使命感のようなものに支えられて「読まねばならない」と12日間、ひたすら読み続けた。

岩波少年文庫は、理論社の単行本と違って字も大きく、行間にもゆとりがあって読みやすくなっていた。しかも各巻ごとにその巻の内容に沿ったベルリンの地図が挿入され、登場人物の簡単な紹介、巻末には年表も入り（ちなみに理論社の『1933』は地図なし、登場人物の紹介なし、年表なし）、邦訳のタイトルはそのままだが、原題をサブタイトルで生かしている。すなわち、『DIE ROTEN MATROSEN（赤い水兵）』『MIT DEM RÜCKEN ZUR WAND（壁を背にして）』『DER ERSTE FRUHLING（はじめての春）』である。



\*次ページにつづく

一作目の『1919』は、作者が西ドイツの国籍を得て10年後の1984年に出版、続いて二作目が1990年、三作目が1993年と続く。訳者は1985年原書で初めて読んでから、15年後の2000年に、まず二作目の『ベルリン1933』を理論社から出版し、2005年に三作全てが出版となった。20年越しの執念である。そして、それから15年後の今年2020年に岩波少年文庫に取り込まれた。出版にいたるこれらの年数を見るだけで驚嘆させられ、深い敬意を覚えさせられる。

年数といえば『1919』の主人公ゲープハルト家の長男ヘレは13才。そして『1945』では一女の父で40才になっている。その27年間の過酷な政治の変遷の只中に巻き込まれる一家の様子が語られていくのだが、『1919』の始まりの1918年の11月9日はドイツ革命、20年後の1938年の11月9日はユダヤ人への大規模なテロ「水晶の夜」の始まり、51年後の1989年11月9日はベルリンの壁の崩壊と、コルドンはドイツにとっての11月9日の意味をも『1919』のあとがきで説いている。ちなみにベルリンの壁の崩壊の200年前の1789年は「フランス革命」だった。

さて、重苦しいとはいえ、思いがけない出会いもあった。主人公たちが話題にしていた本である。『1919』ではナウケが読んでヘレにあげたゴーリキーの『母』、『1933』ではヘレがハンスに勧めたヒトラーの『我が闘争』、ハンスとミーツェが話題にするグリム童話の『ラプンツェル』『ヘンゼルとグレーテル』『ホレおばさん』、そして

映画の「戦艦ポチョムキン」。ヘレが残していった『母』とエミール・ゾラの『犠牲』とアンリ・バルビュスの『砲火』。『1945』ではゾラの『獲物の分け前』。いずれも確認したり読み上げて、ウェブ図を作成してみたいと思った。そして、付箋と傍線だらけの分厚い理論社のベルリン三部作をトランクに詰め、ベルリンに飛んで、アッカー通り37番地を訪ねてみたいと思っている。

=====

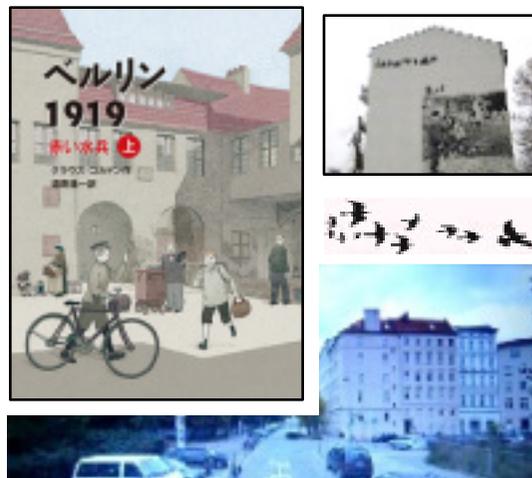
1919年、第一次世界大戦の終結とワイマール共和国の誕生。

1933年、ナチによるファシズム独裁の始まり。

1945年、敗戦。

舞台はベルリン、ヴェディング地区。アッカー通り37番地。20世紀の前半、時代が激しく揺れ動いたとき、最も貧しい人びとは、何を思ってそこに暮らしていたのか。必死に生きのびる毎日のなか、それぞれにどのような選択があり得たのか。

労働者の子どもたちが目撃した、3つの大きな時代の転換期。



## 最近 東京上空を低く飛ぶ旅客機を見たことはありませんか



この写真は、2月28日。午後3時39分に杉並の妙正寺公園（杉並区清水3-21）で東の空を写した写真です。（ANA）

南風の日で、午後3時以降に羽田に向かう飛行機の新ルートで、北海道や東北方面から飛来する飛行機はこのコース（朝霞-練馬-中野-渋谷-品川-羽田A滑走路）を使います。この新ルートの問題点については、

去年3月の杉退教たより166号に掲載しました。（支部HP参照）

ところで、この飛行機に乗って右側の座席の窓から下を見たら、杉並の街の姿を見ることができるでしょう。妙正寺公園も見えるかもしれません。でも、そのためにわざわざ飛行機に乗るのもばかばかしいし……だれか空撮をした人はいないものか。GoogleのYouTubeを探してみました。関西方面からの左窓の画像はいくつかありました。都心やレインボーブリッジが見える派手な動画です。

右窓の動画はないものか……。ありました！去年の7月10日、JAL B767-300に搭乗した方の動画です。撮影した方に感謝です。



「杉並第九小学校が見えるぞ。だとすると、組合事務所はここかな？」「妙正寺公園だ。ここから飛行機を写したな」\*数字はどこでしょう？回答は次ページに

アメリカ西部コロラド州デンバーの近郊で2月20日、飛行中だったユナイテッド航空のボーイング777型機のエンジンが損傷、炎上し、住宅地にエンジン前部フレームなどの部品が落下したニュースを見ました。



日本のように建物の密集地の上空を飛行するのは危険です。東京だけでなく大阪伊丹、福岡空港もしかり。

特に東京の新ルートについては、米軍の横田管制空域とのからみもあります。国土交通省への新ルート見直し、撤回を要求したいものです。



また、落下物の危険は、事故ばかりとは限りません。着陸前に車輪を出しますが、ガタンという衝撃は搭乗したとき感じます。付着していた雪片などが落下しないかも心配です。前ページ妙正寺公園で撮影した飛行機は、沼袋の上空あたりを飛行していますが、ちょうどこの時、車輪を出したことがわかりました。どこで車輪を出すかは、機長の判断ですが、空気抵抗で降下角度を強くするために、早めに車輪を出すこともあるようです。 たかぎ たかし (元高井戸東小)

\* 前ページ 航空写真の番号はどこ?・・・回答です

- ①高井戸清掃工場の煙突 ②善福寺緑地公園 ③青梅街道 ④杉並区役所 ⑤阿佐ヶ谷駅 ⑥中央線 ⑦荻窪駅 ⑧日大二高 ⑨杉並第九小(杉並支部もこのあたり) ⑩中杉通り ⑪四面道交差点(青梅街道・環状8号線) ⑫妙正寺公園 ⑬早稲田通り ⑭公社鷺宮住宅と中心を流れる妙正寺川 ⑮西武新宿線 ⑯鷺宮駅 「白鷺せせらぎ公園と運動広場(地下が妙正寺川調整池)」 「東原中学校」や「桃井原っぱ広場」なども探してみてください。

年金者新聞短歌欄から

影生まぬ店を出で来て  
影を生む家に戻りぬ影は安らぎ  
青森県Iさん 83

教科書が真白に見えし日のありき  
大学の道絶たれしあの日  
秋田県Sさん 74

柔らかに窓より差し込む冬の陽が  
湯呑の湯気を白く照らせり  
茨城県Zさん 85

あごを引き一歩一歩を歩みゆく  
四国遍路は今日はいずこまで  
愛媛県Oさん 81

孫住めるゆえに気になる  
神奈川の感染者数まもなく師走  
宮崎県Kさん 77

\* 同年代、気持ちよくわかります。



新村洋子さんから近況のたよりをいただきました・・・

みなさんお元気でお過ごしのことと思います。  
2年前の骨折から回復し、歩行も日常生活も戻ったつもりですが、仕事が遅くなり、コロナ禍の影響もあり、1年の仕事を2年もかけて仕上げているような次第です。  
地元の国分寺で写真展を開き、1月30日に無事終了しました。夢はさらに広げたいと思っています。  
市報「国分寺」1月号に紹介されましたので同封いたします。(元杉八小)



ベトナムホストタウンPR写真展  
ベトナムの自然を守る 新村洋子さん

1月27日(水)～30日(土)  
午前9時～午後8時(27日は午後1時～ 30日は午後6時まで)  
セミナールーム (cocobunji WEST5階)  
入場無料 写真撮影可

ベトナムの自然をテーマに写真展を開催します。ベトナムでアジアゾウの保護活動に尽力する市内在住の写真家新村洋子さんが、ベトナムのヨックドン国立公園に何度も足を運び撮影してきた写真です。ベトナムの豊かな自然と急速に進む社会の発展に伴う開発。森林減少によるゾウの生息地の減少や地球温暖化といった環境問題から持続可能な開発とは何かを考えるきっかけとなる、アジアゾウとその地域で暮らす人々を中心とした写真展です。

新村洋子さん＝NPO法人アジア野生動物研究センターベトナム担理事・前ベトナムのアジアゾウ保護ヨックドンの森の会代表・写真家・絵本作家



川柳&狂歌

たか坊主

リコールの署名用紙も整形し  
延期する勇氣示そう五輪の和  
中流が消えて上下の級になり  
コロナ禍は人の上にも人造る  
アマテラス神も苦言の森発言  
総理には家族思いの人がなる  
前は奥さま今は跡取り

GO TO は入浴剤で温泉めぐり 昨日山代今  
日草津 眼閉じれば湯治場で 湯から上がれ  
ば缶ビール 今日も一日無事でした  
(以後、前号からの戯言 続編です)

今日もGO TO 入浴剤 ちよつとメーカー替  
えてみた 香りも色もちよいつい 袋の  
能書きよく見たら 小さな文字で中国産 (Made  
in China) 眼閉じて湯治場見えぬ 見  
えてきたのは天安門 お蔭で湯冷め興覚め酔  
いも覚め それでも一日無事でした。  
(お粗末でございました。)

